

令和7年度 学校評価（後期の結果）

伊予市立港南中学校

校長 相原 勝

令和7年度後期の教育活動への評価を、生徒・保護者・教職員で実施しました。その結果を踏まえ、今後の教育活動の改善と充実のための取組を立案し、今後の教育活動をより一層、改善・充実させてまいります。

- ※ 実施期間 令和8年2月2日(月)～13日(金)
- ※ 実施方法 W E B上での4段階択一式回答及び記述
(4段階 4：そうだと思う 3：だいたいそうだと思う 2：あまりそうだと思わない 1：まったく思わない)
- ※ 判定基準 A：平均3.2以上 B：平均2.6以上 C：平均2.6未満
- ※ 評価判定 上段は令和7年度前期調査結果、下段は令和7年度後期調査結果

具体的な取組内容			総合判定	評価			考察と今後の取組	
				判定	対象	平均		
協働的な学習活動の推進	①	ICT機器を積極的に活用した「学ぶ喜び・学んだ実感」のある授業の工夫	3.0 B ↓ 2.9 B	3.0	生徒	3.0	【考察】 ○ ①～④ともに、おおむね良好な評価結果ですが、一部の項目では前期からの低下がみられます。 ○ ①について、おおむね良好な評価ですが、ICT機器を活用している授業としていない授業の2極化が進んでいると考えられます。今後効果的にICT機器を活用する必要性があります。 ○ ②について、教員の評価が低下しています。考え、表現する場をどう評価し、子どもたちからどのように引き出すのかを今後検証していくことが求められます。 ○ ③について、生徒も教員も低下しています。個に応じた学習ができるよう、支援体制を整えていますが、教員は更なる支援の必要性を感じているからと言えます。 ○ ④は、生徒、保護者、教員とも、他より低めの評価結果となっています。家庭学習の習慣が身に付いていないと、どの評価者も感じていることが分かります。 【今後の取組】 ○ ①については、授業におけるICT機器の活用が目的にならないよう、効果的な活用に努めます。 ○ ②については、引き続き「問答ゲーム」などの継続を図ることによりコミュニケーション能力の育成に努めます。 ○ ③については、授業で学習課題と振り返りを提示し、授業で何を学んだのか、学びの成果を実感できるよう努めます。 ○ ④については、宿題の出し方を工夫するなど、家庭学習の習慣化に努め、学力の定着・向上につなげます。	
				B		保護者		2.9
				3.0				
	②	基礎・基本を活用して考え、表現する場(伝え合い・分かり合う場)を設定し、生徒の力を引き出す工夫		3.1	生徒	3.1		
				B		保護者		2.8
				3.0				
	③	振り返りを行い、特別支援教育の視点による一人一人に配慮した授業展開の工夫		3.1	生徒	3.4		
				B		保護者		2.9
				3.0				
	④	家庭学習に生徒自らが主体的に取り組める手立ての工夫		2.7	生徒	2.9		
				B		保護者		2.4
				2.7				
主体的な生徒活動の推進	①	仲間と共にやり抜く場を設定し、やりがいや達成感を味わわせる工夫	3.2 A ↓ 3.2 A	3.2	生徒	3.3	【考察】 ○ ①～④ともに、おおむね良好な評価結果であり、生徒において前期より評価が上がっている項目もあります。 ○ ①・③について、生徒が企画・運営する運動会、文化活動発表会等、生徒が主体的に活動できる場を設定したことで、充実した活動ができていると実感していることが分かります。 ○ ①について、個別の質問内容についてみると、「いじめや仲間外しなどのない学校にしようと努めている」の項目は生徒の評価は3.6であり概ね良好な評価です。しかしながら、いじめの未然防止及び早期発見、早期対応は継続的かつ組織的な取組が不可欠であると考えます。今後も学校全体として高い意識を持ちながら、日常的な指導の充実、生徒理解の深化、教職員間の情報共有を図りながら、安心して学校生活を送ることのできる環境づくりに努めてまいります。 ○ ②について、定期的な教育相談だけではなく、生徒指導、SCやSSW、その関係機関と連携を図り、相談できる環境づくりを行っている成果が上がっていると考えます。 【今後の取組】 ○ ①・③・④については、今後も様々な活動において生徒が主体となり、企画・運営できるよう支援するとともに、今年度実施して課題となった内容について、改善できるよう努めます。 ○ ②については、生徒をあらゆる面から支援できるように、学級担任だけでなく、学年部、生徒指導、SC、SSW等関係者との情報共有に今後も努めます。 ○ ④については、結果だけでなく目標設定、課題への取組、仲間との協調性なども部活動のプロセスを重視します。生徒の可能性を信じ、肯定的な言葉で接すること重要性を認識し、様々な活動に取り組むよう努めます。	
				A		保護者		3.3
				3.3				
	②	生徒理解・教育相談を効果的に行い、自己管理能力を高める指導の充実		3.2	生徒	3.2		
				A		保護者		3.1
				3.2				
	③	生徒同士が協力・協働することを通しての互いに高め合える集団づくり		3.2	生徒	3.3		
				A		保護者		2.8
				3.2				
	④	切磋琢磨する部活動等の充実による個性の伸長と自信を持たせる工夫		3.0	生徒	2.9		
				B		保護者		3.0
				3.0				

	具体的な取組内容		総合判定	評 価			考察と今後の取組
				判定	対象	平均	
充実した道徳教育の推進	①	互いを認め合い、励まし合う仲間意識を高め、安心できる支持的風土のある集団づくり	3.1 B ↓ 3.1 B	3.2 A ↓ 3.2 A	生徒	3.4 3.5	【考察】 ○ ①～④ともに、おおむね良好な評価結果ですが、一部の項目で、保護者・教員の評価が下がっています。 ○ ①～④について、教員は道徳科の時間を要として、学級経営や教科経営、全教育活動を通じて道徳教育を推進しています。考え議論する道徳の基盤となる安心して自分の意見を言える学級の雰囲気づくり・支持的風土のある学級集団づくりは不可欠だと考えます。 【今後の取組】 ○ 生徒が有用感を感じたり自己肯定感を感じたりすることができること、安心して学校生活を送れることは必要であると考えます。教科指導や学級活動、学校行事などあらゆる場面で生徒同士が互いの良さを認め合う機会を意図的に設定するとともに、教職員が積極的に肯定的な声掛けや評価を行っていく必要があります。さらに、今後生徒の変容を継続的に見取り、成果を共有することで自己肯定感の着実な醸成を図っていききたいと考えます。 ○ 「考え、議論する道徳」については生徒の評価が高く、主体的に意見を出し合い、多様な考えに触れる学習として一定の成果が見られます。一方で教師の評価が低い結果となった背景には生徒の思考の深まりや価値の内面化を十分に把握しきれていないことが考えられます。今後、授業のねらいや評価の観点を明確にした上で効果的な発問や話し合いの手法を校内で共有していきたいと考えます。生徒の発言や振り返りを通して、思考の深まりを可視化し、教師が成果を実感できるようにすることで「考え議論する道徳」の質の向上につなげていきたいと考えます。
					保護者	3.1 3.0	
					教員	3.0 3.2	
	②	有用感を感じ、人としての生き方について考え、議論する道徳の時間の指導の工夫		3.0 B ↓ 3.0 B	生徒	3.3 3.4	
					保護者	3.0 3.1	
					教員	2.7 2.5	
	③	互いに夢や目標を語り合う場や機会の充実による自己肯定感の醸成		3.0 B ↓ 3.1 B	生徒	3.3 3.3	
					保護者	3.2 3.2	
					教員	2.6 2.7	
	④	自己評価・他者評価による自己認識・他者認識の力の向上		3.0 B ↓ 3.2 A	生徒	3.2 3.2	
					保護者	3.0 3.0	
					教員	2.9 3.3	
信頼・期待される学校づくりの推進	①	地域の「ひと・こと・もの」とかかわる学習による生きる力につながる教育活動の工夫	3.1 B ↓ 3.1 B	2.9 B ↓ 3.0 B	生徒	3.1 3.1	【考察】 ○ ①～④ともに、おおむね良好な評価結果です。 ○ ②は、学校ホームページや学級通信を通じた日々の情報が、写真や記事とともに発信された成果が、高い評価となって表れています。また、情報共有・連絡アプリ「テトル」を通じた情報伝達が定着してきた成果と考えます。 ○ ③は、PTA活動や後援会活動を通じて、日頃から学校活動にご協力いただいている協力関係の表れであると考えます。 【今後の取組】 ○ 学校ホームページでの日々の情報の発信を多く行い、学校での様子のご理解いただくように努めます。 ○ 今年度から学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が本格的に始動し、学校と保護者、地域との連携・協力関係を更に深めることができました。今後も学校の実態を共有し、協議することを通して、信頼・期待される学校づくりに努めます。 ＜学校関係者評価委員より＞ ○ 家庭学習習慣の未定着が以前から課題となっている。基礎・基本の定着不足が学習内容の理解度に影響していると思われる。今後「分かる授業」の実現に向けた授業改善と教師の指導力のさらなる向上を期待する。 ○ キャリア教育の充実を通して、学習の目的を持たせることが必要だと思う。将来を見通した学びを意識させることで主体的に学習に取り組む態度の育成が図れるのではないかと。 ○ 学校行事に生徒が主体的に取り組む姿が随所に見られる。行事に向けての活動を通して、責任感や協調性が育まれているように思う。また、集団をまとめるリーダーの育成も進んでいるように感じる。 ○ サポートルームの設置により、不登校生にとって安心して過ごせる居場所づくりが進んだのではないかと。個々の状況に応じた支援を行うことにより、学校とのつながりを維持できていると思う。 ○ 学校行事や道徳、人権学習などを通して、仲間や自分を支えてくれている人たちの存在を実感し、感謝の気持ちを持つことができているように思う。 ○ 教師自身が夢や希望を持って子供に接することが大事だと思う。そのためにも、楽しい職場づくりを、さらに進めていく必要があると思う。
					保護者	2.8 2.8	
					教員	2.9 3.0	
	②	HP、学校便り等を通じた情報発信		3.1 B ↓ 3.1 B	生徒		
					保護者	3.1 3.2	
					教員	3.1 3.0	
	③	開かれた学校を意識し、保護者の願いや思いへの適切な対応		3.1 B ↓ 3.2 A	生徒		
					保護者	3.1 3.2	
					教員	3.1 3.1	
	④	小中連携の工夫と学校運営の見直しの実施		3.1 B ↓ 3.0 B	生徒		
					保護者	3.2 2.8	
					教員	3.0 3.1	